

# FOMCは2会合連続で利上げを見送り無風通過



シニア・ストラテジスト 石黒英之

## ポイント① FOMCは2会合連続で利上げを見送り

FRB（米連邦準備制度理事会）は10月31日～11月1日に開催したFOMC（米連邦公開市場委員会）でFF金利を2会合連続で据え置きました。FRBは7月までの会合でFF金利を5.25～5.5%と22年ぶりの高水準にまで引き上げたことや、その後に米長期金利が大きく上昇していることが、2会合連続の利上げ見送りにつながったとみられます。

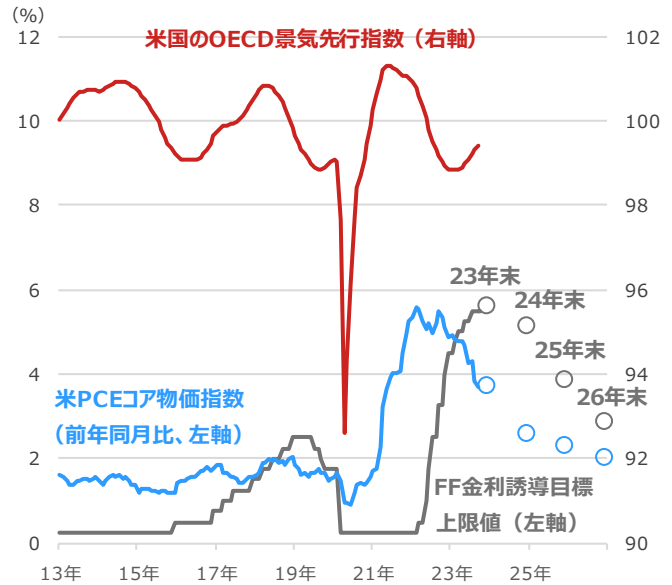
9月のFOMCで公表した経済見通しでは、23年10-12月期の米PCE（個人消費支出）コア物価指数の伸びは前年同期比3.7%としています。ただ、これまでの利上げと米長期金利上昇の影響などから、足元ではそれを上回るペースで物価が鈍化しており、米利上げはすでに終了した可能性があります。米景気は拡大基調に転じつつあるなど、米経済は緩やかなインフレ鈍化と経済成長が併存する「適温経済」が続く公算が現時点では強まっています（右上図）。

## ポイント② 米金融市場は株高・債券高で反応

最近の米長期金利の急上昇により米国の金融環境は引き締まっており、こうした動きは今後の米経済を減速させるとみられます（右下図）。FOMC声明でも「家計と企業向けの金融・与信状況の引き締めは、経済活動や雇用、インフレに影響を及ぼす公算が大きい」との見方が示され、引き締めに関して前回の声明ではなかった「金融」の文言が追加されました。

今回のFOMCや会合後のパウエル議長の会見は市場予想に沿った内容だったこともあり、米金融市場は株高・金利低下（価格は上昇）、追加利上げ確率低下で反応しました。もっとも、FRBは追加利上げに含みを持たせる姿勢を維持しており、当面は経済や金融環境を見極めつつ、「適温経済」の持続性を探る流れとなりそうです。

## 米国のOECD（経済協力開発機構）景気先行指数・FF金利誘導目標上限値・米PCEコア物価指数



・FF金利はフェデラルファンド金利  
・○印は9月FOMCで示された23年末～26年末のFOMC参加者予想中央値（米PCEコア物価指数は10-12月期の前年同期比）  
（出所）BloombergおよびFRBより野村アセットマネジメント作成

## 米実質GDP（国内総生産）成長率とGS金融環境指数



\*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。